

海燕社

の小さな

映画会 2019

2019.8.17 (土) 18:30~ (18:00開場)

沖縄県立
博物館
美術館

講堂 (3F)

料金1,000円(要予約) ※当日1,100円

予約は上映4時間前まで 098-850-8485(カイエンジャ)

九州・沖縄から
文化力
POWER OF CULTURE
後援：沖縄県
那覇市



南島にはかつて適齢期の娘たちの間に、両手の手甲から腕にかけて、ハジチ（針突）と称される入墨をする風習があった。現在では見ることが出来なくなったが、かつては沖縄女性の象徴でもあった。この風習が廃れた直接の原因は、明治政府の禁止令によるもので、沖縄では明治32年に出されている。

南島における針突の歴史は古い。伝説の一部に語られているように島津氏侵入後のものではないことは明らかで、陳侃の『陳侃使録』（1534年）や袋中和尚の『琉球神道記』（1605年）等に琉球婦人の入墨のことが述べられていることから分かる。

また、南島の針突の分布を眺めた場合、南は与那国島から、北は奄美大島、喜界島まで分布し、それはノロ文化やグスク文化、あるいは洗骨改葬文化と共存していることが知られる。（解説書より）

沖縄・宮古諸島のイレズミ

南島残照 女たちの針突

ハジチ

一九八四年撮影 二〇一四年制作

64分

この映像は一九八四年に八十八歳から九十九歳までの女性二十二人を撮影したものである。南島に生きた女たちがハジチについて語ったおそらく最後の記録である。

監督：北村皆雄
監修：名嘉真宜勝
琉歌：嘉手刈林昌
わらべ歌：糸満市西崎小学校合唱部
採譜・編曲：杉本信夫
制作：北村皆雄、三浦庸子
製作：ヴィジュアルフォークロア

